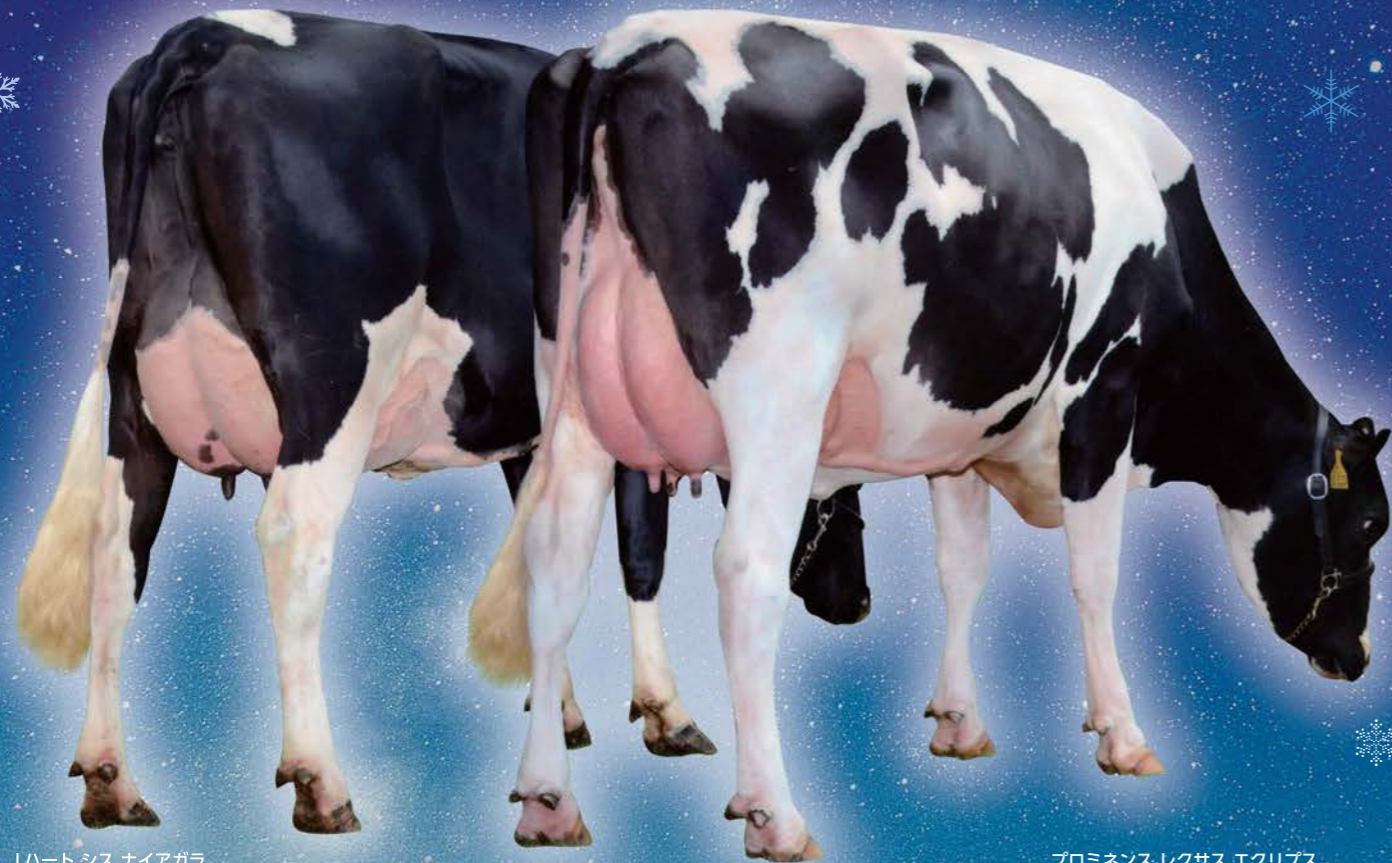




eclipse

JP3H55839



リハート シス ナイガラ
浦幌町 有限会社ランドハート 所有
母の父：ピーチローン スローカム タム シド ET

プロミネンス レクサス エクリプス
別海町 寺澤 信 氏 所有
母の父：グレントクティン バッグナー ET

ティュー ナイト エクリプス ET

〈ナイアグラ×マスコール×フォーム ブレット〉

繁殖管理形質に優れたナイアグラ×マスコールのアウトクロス
体型改良に優れ、乳器は全国2位の改良度！



NTP +2,255



一般社団法人
ジェネティクス北海道
GENETICS HOKKAIDO assoc.
HP <http://www.genetics-hokkaido.ne.jp>
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F

（業務部）
TEL(011)242-9645
FAX(011)242-9651
（改良部）
乳牛改良課
TEL(011)242-9646

●写真撮影/ホルスタインマガジン社
●道北事業所……TEL(0166)57-6111 FAX(0166)57-6113
●道東事業所……TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325
●道央広域事業所 広域 TEL(011)375-4395 FAX(011)375-4411
道央 TEL(011)375-4422
●十勝北見事業所……TEL(0156)63-3838 FAX(0156)63-3839
●十勝清水種痘牛センター……TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
●道央種痘牛センター……TEL(011)375-3939 FAX(011)375-2330

発行所/一般社団法人 ジェネティクス北海道
発行人/石村 正志 平成28年11月15日号

Vol.421

11月

SIRE



サイア

CONTENTS

- 2 現場レポート(乳) ~あの輝かしい福島県の酪農を再び!!
牛も人も幸せな牧場を目指して~
- 4 2016北海道ホルスタインナショナルショウ
- 6 NAAB 人工授精と繁殖に関する技術会議に参加して
- 8 注目のカウファミリー 第24回 ミルクワース マンフレッド ヤツダ VG-86
- 10 第13回 ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会
- 13 ☆食レボ☆ 有限会社 夢がいつぱい牧場/ET講習会合格者
- 15 現場レポート(肉) 循環型農業を目指して地域ブランドを創る!
~旭川市(株)ひかり牧場「旭高砂牛」を訪問して~



「何か用?」

画:富田 美穂 HP「牛の木版画と絵画」<http://miho-tomita.jimdo.com/>

ブログ「うしのつむじ」<http://usinotomuji.blog28.fc2.com/>

～あの輝かしい福島県の酪農を再び!! 牛も人も幸せな牧場を目指して～

今回は、平成23年3月の東日本大震災により甚大な被害を受けた福島県の“避難休業を強いられた福島県内の酪農家”5名で立ち上げ、酪農に情熱を注ぎ続けている農業生産法人“株式会社フェリスラテ”をご紹介します。

社名には、フェリス(Feliz:スペイン語で幸せ・幸福)とラテ(Latte:イタリア語で牛乳)を合わせ、この牧場から皆を幸福にする牛乳を届けたいという創業者5名の熱い思いが込められています。

【東日本大震災が福島県へもたらした影響】

平成23年3月11日午後2時46分。マグニチュード9.0、日本観測史上最大の地震である東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生しました。この地震により巨大な津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。

そして福島県は、さらなる悲劇に見舞われます。東京電力福島第一原子力発電所の事故です。放射性物質の漏洩拡散により、酪農業は大きな打撃を受けました。

酪農家戸数は、震災前に比べ今年6月末の集計で3分の2にまで減少しています。生乳に関しては、生産者の取引乳価に影響は無かったものの、首都圏販売が消滅し県内での販売も震災直後は約25%が減少しました。現在は各メーカーの努力で徐々に回復していますが、生乳販売乳量は震災前に比べて約75%程度にとどまっており、依然として厳しい状況は続いています。

また自給飼料に関しても、平成23年～24年は県下全域全面利用停止。草地全体の被害面積は2,250ha、約3万3千トンにもなりました。平成26年度までに約80%の除染が完了しており、現在も除染を進めている状況で、今後の自給飼料生産の完全再開が期待されます。なお牛乳に関しては安全管理が徹底されており、震災前と変わらない美味しさの牛乳が全国に届けられています。

【福島県酪農の復興のシンボル“フェリスラテ”】

震災後、酪農関係者の間では一日も早い酪農業の再開と復興の計画を練り始めていました。そんな中、国、県の復興対策事業である“東日本大震災農業生産対策交付金事業”が実施され、平成25年度に復興牧場事業をスタートしました。主体は福島県酪農業協同組合で、国の補助(50%)・県の補助(32.5%)を受け、フリーバーン搾乳牛舎(各160頭)3棟・乾乳牛舎(80頭)1棟・哺乳牛舎(50頭)1棟・堆肥舎1棟・堆肥乾燥舎2機・飼料倉庫の建設が行われました。また建設と並行して、牧場の運営を行う“原発事故避難休業酪農家”であった、飯館村の田中一正さん(現在代表取締役社長)、浪江町の門馬秀昭さん(現在取締役総務部長)、浪江町の宮田幸雄さん(現在取締役外務部長)、飯館村の長谷川義宗さん(現在取締役場長)、南相馬市の但野賢士さん(現在取締役副場長)の5名が法人化への準備を進め、平成26年4月に“農業生産法人 株式会社フェリスラテ”は発足しました。



外から見た牧場の様子

田中社長は以前、飯館村で授精師として乳牛および和牛の繁殖に日々活躍されていました。フェリスラテの現状や今後について、田中社長にお話を伺いました。

【フェリスラテの現状】

「現在は従業員6名(内3名が女性)、パート9名を加えた20名で運営を行っています。ほとんどが初めて酪農業に携わる方々ですが、皆さんガッツがあり仕事もすぐに覚えてくれるので大変助かっています」。飼養頭数はホルスタイン580頭、うち大半が全酪連の庭先購買による購入で、ほかおよそ100頭は北海道の十勝や釧路の市場まで、田中社長本人が牛の目合わせも兼ねて買いに行きました。



餌押しロボットも活躍する搾乳牛舎

フェリスラテへ来てから産まれた子牛たちは、自動哺乳機付きの哺乳牛舎で、首につけるタグによって個体管理され、1ヶ月後に石川郡にある酪農組合の保育



迫力がある20頭Wのバラレルパーラー

戻ってくるという流れです。

続いて、牛集めの基準と授精状況について伺いました。「20頭Wバラレルパーラーで、現在は日量約14t搾っています。今はまだ初産牛が多いですが、産次を重ねてどんどん乳量が伸びていくだろうと思います。体型的な購買基準としては、パーラーやフリーバーンに適した、足腰の強い牛を選びました。さらに、乳量を追うよりもあまり大きくなく長命で飼養管理のしやすい牛が理想です。種雄牛であれば、オーマンの娘のような牛が良いですね。授精は私と場長の2名で行っています。後継牛を自家産で残したいと考えているので、性選別精液を主に使用していますが、分娩のことも考慮してF1用の黒毛和種の精液も併用するようにしています。F1は個体販売としての収入にもなるので、性選別精液で後継牛を確保した後はF1生産に力を入れていくことができたら良いと考えています。また、私たちは震災で多くの牛を失いました。この牧場では、受胎の悪い牛を簡単にあきらめたりしないといったことも含めて、一頭ずつを大切に飼養・管理していきたいと思っています。まだまだ先の話かもしれませんが、牧場が軌道に乗ってくれば、ジェスロやアイオンの様な種雄牛を使用して、体型の優れた娘牛の生産もしてみたいです。」と話していただきました。

今フェリスラテにいる牛たちは、様々な牧場から集められており、血統も育った環境も全く異なりますが、田中社長の高い改良意識により、今後は能力的にも体型的にも確実に改良されていくだろうと感じました。

【今後の課題】

- 「細かいところ言えば、3つほどあります。
- ① 乳用牛群検定。現在牛の登録は自動で行っていますが乳用牛群検定は行っていません。搾乳メンバーの動きの中でスムーズに検定員さんが動けるようになれば、個体の能力を知る為にも取り入れていきたいと思っています。
 - ② 近隣農地の開墾・牧草地の面積拡大。現在、餌はすべて福島県酪からの購入飼料を給仕していますが、いずれは自家産の牧草生産を行いたいと考えています。全ての飼料を自家産で賄おうとは思いませんが、近隣農家の協力を得ながら少しでも自給飼料を作っていきたいと考えています。
 - ③ 堆肥の販路拡大。現在は戻し堆肥として牛舎の通路に

撒いたり、個々の農家へ販売したりしていますが、安定した販路はありません。頭数が多くなれば全量処理するのは厳しいでしょう。そこで、安定した販路の拡大が大きなカギとなってくると思います。

さらに最終的には“6次化を含めた複合経営へと向かう”ことが挙げられます。この牧場の搾乳牛はもうこれ以上増えないので、牛乳生産のみでの収入はこれ以上伸び代が見込めません。

そこで上記の3つの課題に加えて、受精卵移植による黒毛和牛の生産による複合経営や6次化による乳製品への加工などです。社員・パートを含めて20人を超える大所帯になっていますので、“復興牧場フェリスラテ”として発展していく為に、早い段階から次の手を考えていかなければならないと思っています。」



田中一正社長(右)と当団道央広域事業所 足達所長(左)

フェリスラテを担当する福島県酪農業協同組合生産部生産指導課の増子裕人さんも、「フェリスラテは福島県の復興のモデルケースでありシンボルです。現在は農家戸数・頭数共に非常に厳しい状況が続いている為、このような前向きな牧場がこれからどんどん増えていくことを強く望みます。それによって、福島県の酪農畜産業の復興は大きく前進すると思います。」と話しています。

東日本大震災から5年半が経ち、福島県の酪農畜産業は関係者達の懸命な努力で復興が進んでおり、さらに加速させる為に力を注がれています。私たちにできることは少ないかもしれませんが、逆境に負けずに立ち向かっている人たちがいるということをもっとたくさんの方々に知っていただきたいと思っています。

この度はご多忙にもかかわらず取材に応じていただきました。農業生産法人(株)フェリスラテ 代表取締役社長の田中一正様、福島県酪農業協同組合の増子裕人様に感謝を申し上げますとともに、より一層の復興を心よりお祈りを申し上げます。

(道央広域事業所 大崎悠里)

2016 北海道 ホルスタインナショナルショウ

「例えるならオードリー・ヘップバーンのような気品を兼ね備えた牛である。」

そう審査講評されるほど審査員の心を揺さぶる牛も出品された今回の北海道ホルスタインナショナルショウ。9月24日、25日の両日、北海道ホルスタイン共進会場において開催された今回のショウでは、昨年の全日本ホルスタイン共進会から目標を新たにして臨んだ出品者たちで大変活気に満ちていた。

《オフィシャル・ジャッジ 松原 秀雄 氏 (清水町 酪農家)》

《アソシエイト・ジャッジ、ジャージー部門オフィシャル・ジャッジ 細野 淳 氏(アルタジャパン株式会社)》

《ジュニアカップ、リードマンコンテスト・ジャッジ 高橋 忠司 氏 (オールジャパンプリーダーズサービス株式会社)》

(出品頭数 ホルスタイン種:388頭 ジャージー種:30頭)

CHAMPION

グランドチャンピオン&インターミディエートチャンピオン

2歳ジュニアクラス TMF モーサン ミツシー ゴールドコースト ET (父:アットウッド 帯広市 ライブフィールド出品)

リザーブグランドチャンピオン&シニアチャンピオン

4歳クラス グランデール アストロ ルディー ロイ (父:ゴールドロイ 北広島市 岩田 政彦氏出品)

ジュニアチャンピオン

16~17ヶ月未満 ウォータドリーム リステル チツプ ET (父:ゴールドチツプ 中札内村 水崎 勝秀氏出品)

リザーブ・ジュニアチャンピオン

12~13ヶ月未満 TMF メープル ブロカウ エステイ カモミール ET (父:ブロカウ 広尾町 佐藤 孝一氏出品)

リザーブ・インターミディエートチャンピオン

3歳ジュニアクラス アミダ プリンセス ゴールド チツプ ローザ (父:ゴールドチツプ 陸別町(有)編田牧場出品)

リザーブ・シニアチャンピオン

5歳クラス エツセンス ゴールド アポロ エル ダーハム ET (父:ゴールドウイン 豊富町 栗城 一貴氏出品)

今回グランドチャンピオンに輝いたTMF モーサン ミツシー ゴールドコースト ET(父:アットウッド)《帯広市 ライブフィールド出品》は2歳ジュニアクラスからの出品牛。乳器の良さ、体躯の充実を兼ね備えた上、O.ヘップバーンのような気品ある牛という講評を得ていたのが印象的であった。

リザーブグランドチャンピオンは4歳クラス出品牛のグランデール アストロ ルディー ロイ (父:ゴールドロイ)《北広島市 岩田 政彦氏出品》が選ばれ、会場内からは温かい拍手が贈られた。



GH種雄牛 娘牛たちの活躍

今回のショウは全体を通し当団種雄牛の娘牛たちが数多く出品されていた。

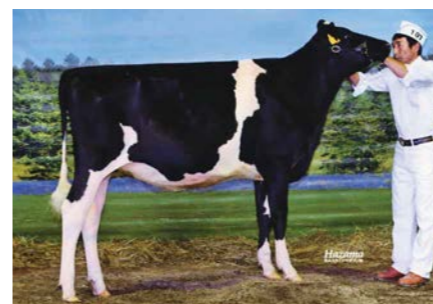
特に国内後代検定種雄牛の娘牛だけで行われるカーフクラス(10ヶ月以上12ヶ月未満)、Jサイア2歳クラス、Jサイア3歳クラスの計3部においても当団種雄牛の娘牛が活躍し、その資質の高さを証明してくれた。中でもショウ全体を通してスパークリング、アイオンの娘牛たちの出品頭数とその体型の改良度には目を瞠るものがあった。



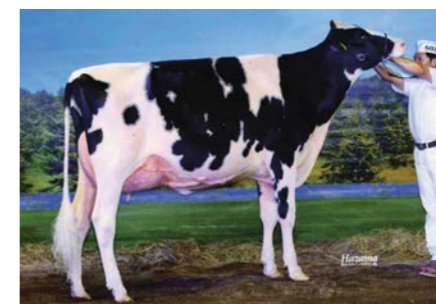
GH種雄牛娘牛出品頭数

スパークリング	34
アイオン	29
スブラッシュ	6
レガリア	3
ストーン	2
ノリッタ	3
サンデイスター	2
バンブルビー(ジャージー)	2
その他	8
合計	89頭

Jサイアクラス(国内後代検定娘牛クラス)成績



Jサイアカーフクラス 1等賞1席
セジスビューティデリー アイオンマウイ
(父:アイオン 清水町 高橋 喜一氏出品)



Jサイア2歳クラス 1等賞1席
アミダファーストスパークリング サクラ
(父:スパークリング 陸別町(有)編田牧場)

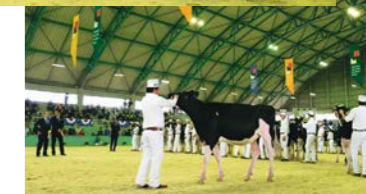
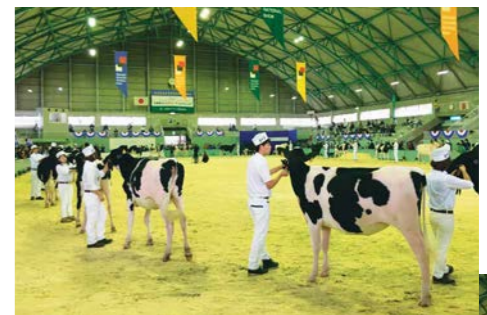


Jサイア3歳クラス 1等賞1席
コマンダー スパーク メリーサン
(父:スパークリング 大樹町 三木 隆志氏出品)

トップセールは ¥3,580,000!! ゴールデンナショナルセール

毎年ショウに付帯し実施されるゴールデンナショナルセール。本州からこれを目的に足を運ぶ方もおり、夕刻のセール会場は手競りの形式も後押しして、一層熱気に包まれていた。

今回リザーブシニアチャンピオンとなった5歳クラス「エツセンス ゴールド アポロ エル ダーハム ET」の同母兄弟である「エツセンス ローソリテイ エル アポロ」(豊富町 栗城 一貴氏出品)がトップセールとなる¥3,580,000で落札され、会場からは感嘆の声が上がった。



昨年の全日本ホルスタイン共進会北海道大会が終わり、次回は東京オリンピックと同じ2020年に九州ブロックとして宮崎県での開催となる。それに向けての一步となった今回の北海道ホルスタインナショナルショウ。今後の当団種雄牛によるより良い改良と娘牛たちの活躍にご注目ください。

詳しいショウ結果とセール結果は 北海道ホルスタイン農業協同組合 ホームページをご参照ください。
北海道ホルスタイン農業協同組合 <http://www.holstein.or.jp/hnac/>

NAAB 人工授精と繁殖に関する技術会議に参加して

米国ウィスコンシン州グリーンベイ市にて、第26回NAAB人工授精と繁殖に関する技術会議が10月12日から14日の日程で開催されました。

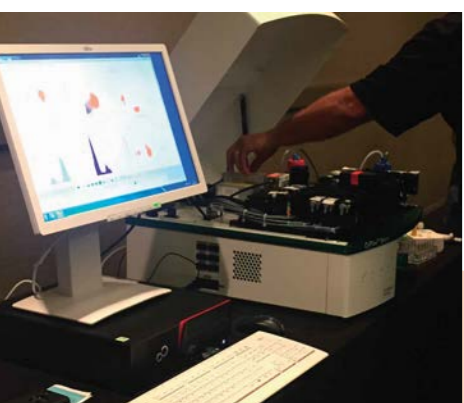
NAAB(National Association of Animal Breeders)は1946年に北米の約20の授精所が加盟し、発足した家畜人工授精事業体の業界団体です。2年に一度開かれる技術会議では、乳牛に限らず様々な家畜や動物(今回はヤギや絶滅危惧種を題材とした講演も)の人工授精・精液生産に関する話題が提供され、最新の情報を得られる貴重な機会となっています。今回は約200名が参加し、国際色も豊かで、日本のほかにブラジル、中国、イギリス、スイスなどの国々が参加しました。

1日目:精液生産等で使用する機器や機材(顕微鏡、フローサイトメーター)の原理や扱い方に関する講演がありました。どれも基本的な内容でしたが、自己流になりがちな扱い方などを再認識する良い機会だと感じました。講演後の実演の場や各社が最新の機器を持ち寄ったブースでは、活発な意見交換がされました。

2~3日目:人工授精や精液生産、牧場における繁殖技術や管理技術に関する話題が提供されました。「技術会議」という名称ではありますが、今回はアニマルウェルフェア(家畜福祉)やバイオセキュリティ(防疫対策)の話題も豊富で、家畜を繋養する団体としての義務や、消費者の方々

の理解をより得るために、今後不可欠となる部分に焦点を置いた講演が多かったのが印象的でした。

いくつか興味深かった講演についてご紹介いたします。



フローサイトメーターの実演



会議の様子

① 種雄牛の発育における栄養学的効果(性成熟と精液生産について)

(Bo Harstine 氏 オハイオ州立大学・セレクトサイア社)
ゲノミック技術によって、供用される種雄牛の若齢化が進んでいます。若齢時の高栄養価給餌により、性成熟に必要なホルモンや精巣重量・精巣体積の増加が有意に見られた一方で、精液生産量には有意な差が見られなかったと論文2例で報告されています。しかし給餌内容が生殖器官の発達に影響を与えることは明らかであり、AI事業体もゲノミックヤングサイアのニーズ拡大に合わせて、それに対応した飼養管理について検討することが必要であり、より効率の良い種雄牛生産につながると提唱されました。

② ブラジルのAI事業について

(Fernando Vilela 博士 ABS pecplan社)
ブラジルは牛肉生産量・消費量ともに米国に次いで世界第2位です。輸出量も年々増加傾向にあり、より低コストで生産性の高い牛が求められています。国内の約80%は熱帯気候に適したゼブ種(コブ牛)が飼養されていますが、より発育に優れる「ゼブ種×アンガス種」のF1生産にも力を入れています。

また、生産量増加のために、改良よりも繁殖を重要視しており、ABS pecplan社では娘牛頭数(信頼度)や妊娠率に基づいて、「ダイヤモンド」「サファイア」

「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」といった、オリジナルのランクを設けて、種雄牛をランク分けしています。また、アニマルウェルフェア(家畜福祉)にも力をいれており、種雄牛1頭ずつに、広い放牧地(もちろん柵はあります)が与えられ、のびのびと飼養されているのが印象的でした。

③ ゲノム編集

(Allison Van Eenennaam 博士 カリフォルニア大学)

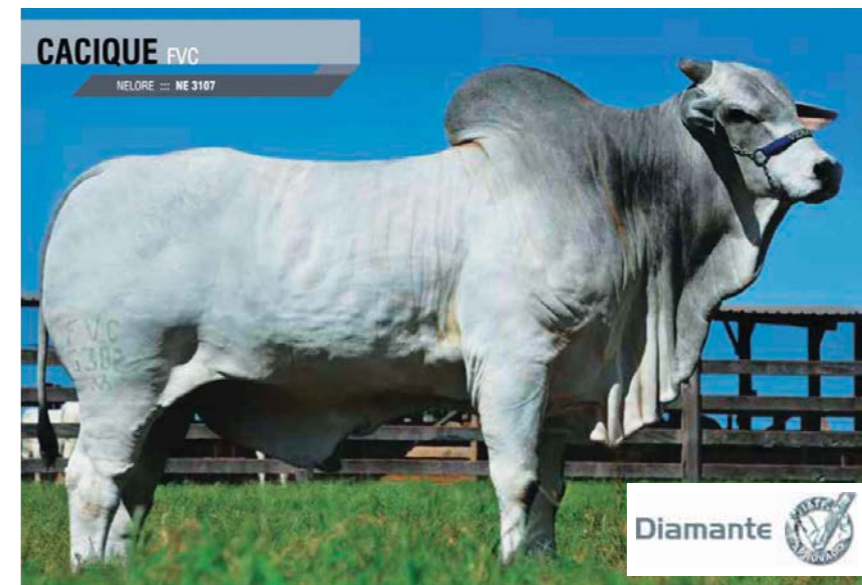
近年「ゲノム編集」と呼ばれる技術を用いて、ピンポイントで狙った遺伝子を無効化(もしくは有効化)する技術に注目が集まっています。「遺伝子組み換え」技術とは比較にならないほど速く正確に遺伝子を操作することができ、ホルスタイン種では既に角が生える遺伝子を無効化することで、無角の仔牛を誕生させることに成功しています。この技術を用いて、遺伝病の原因遺伝子の除去、生産性や繁殖性に関連する遺伝子の導入など、まさに「編集」が可能になると期待されています。まだ確立された技術ではないものの、この技術に対して「どういう印象を持っているか」というアンケート調査も行われ、北米ではゲノム編集された無角種雄牛の生産・販売等については抵抗なく受け止められているようです。



酪農の地として知られるウィスコンシンをイメージし、チーズのイラストが描かれている。(グリーンベイ市 オースチン・ストローベル空港にて)

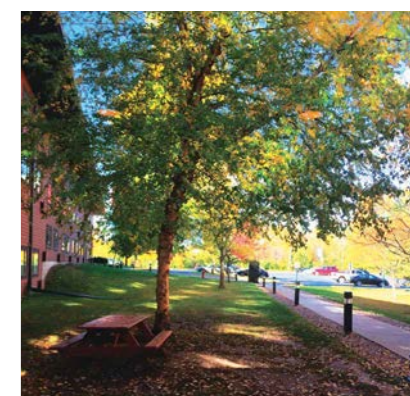
ランク	地域	妊娠率	授精回数	牛群数
Diamante ダイヤモンド	10地域以上	54%以上	10,000回以上	30牛群以上
Safira サファイア	5地域以上	53%以上	6,000回以上	20牛群以上
Ouro ゴールド	3地域以上	52%以上	3,000回以上	10牛群以上
Prata シルバー	3地域以上	52%以上	2,000~2,999回	8牛群以上
Bronze ブロンズ	3地域以上	52%以上	1,000~1,999回	5牛群以上

ABS pecplan社が設定する種雄牛ランク分け
利用された地域数や牛群数、妊娠率、使用本数によってランク分けされている。
妊娠率54%以上が「ダイヤモンド」級に認定される。



「ダイヤモンド」級に認定されている「ネローレ」種(ゼブ牛の一種)種雄牛

3日間という短い時間ではありましたが、ゲノム編集など新しい情報を得ることができました。ゲノム編集はまだ技術面・倫理面での課題が残されていますが、つい数年前に「ゲノミック技術」もこの会議で発表され、今では当たり前になっていることから、今後新たな流れとなるかもしれないこの技術の動向に注目していきたいです。



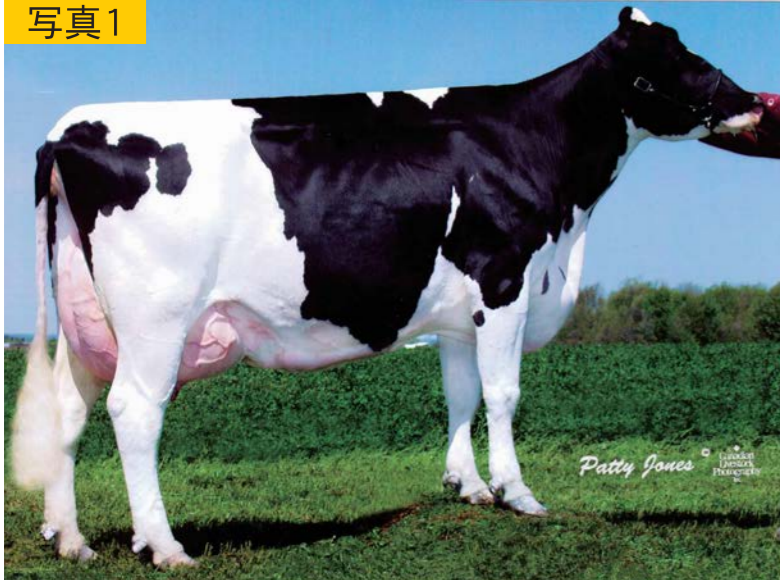
秋らしい天候に恵まれた3日間でした

(十勝清水種雄牛センター 山崎 崇
改良部 改良情報課 藤元 郁子)

注目のカウファミリー 第32回

ミルクワース マンフレッド ヤツダ VG-86

写真1



今回紹介するファミリーは、CRI社所有のマツセイを始めとして当団のJP3H55731ユツプやJP3H55839エクリプス等、国内外で活躍する種雄牛を多数輩出している「ミルクワース マンフレッド ヤツダ」ファミリーです。当ファミリーは独特の交配で改良を進め、ゲノミック評価により発掘され、脚光を浴びました。

ニューヨーク州のコイン牧場は、未經産時に当ファミリーの代表牛ミルクワース マンフレッド ヤツダ【写真1】を同州のミルクワース牧場から\$800で購入しました。コイン牧場がいち早くゲノミック技術を活用したことにより、ヤツダはその力を大いに発揮し

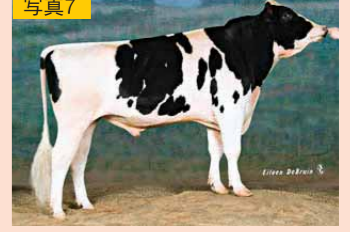
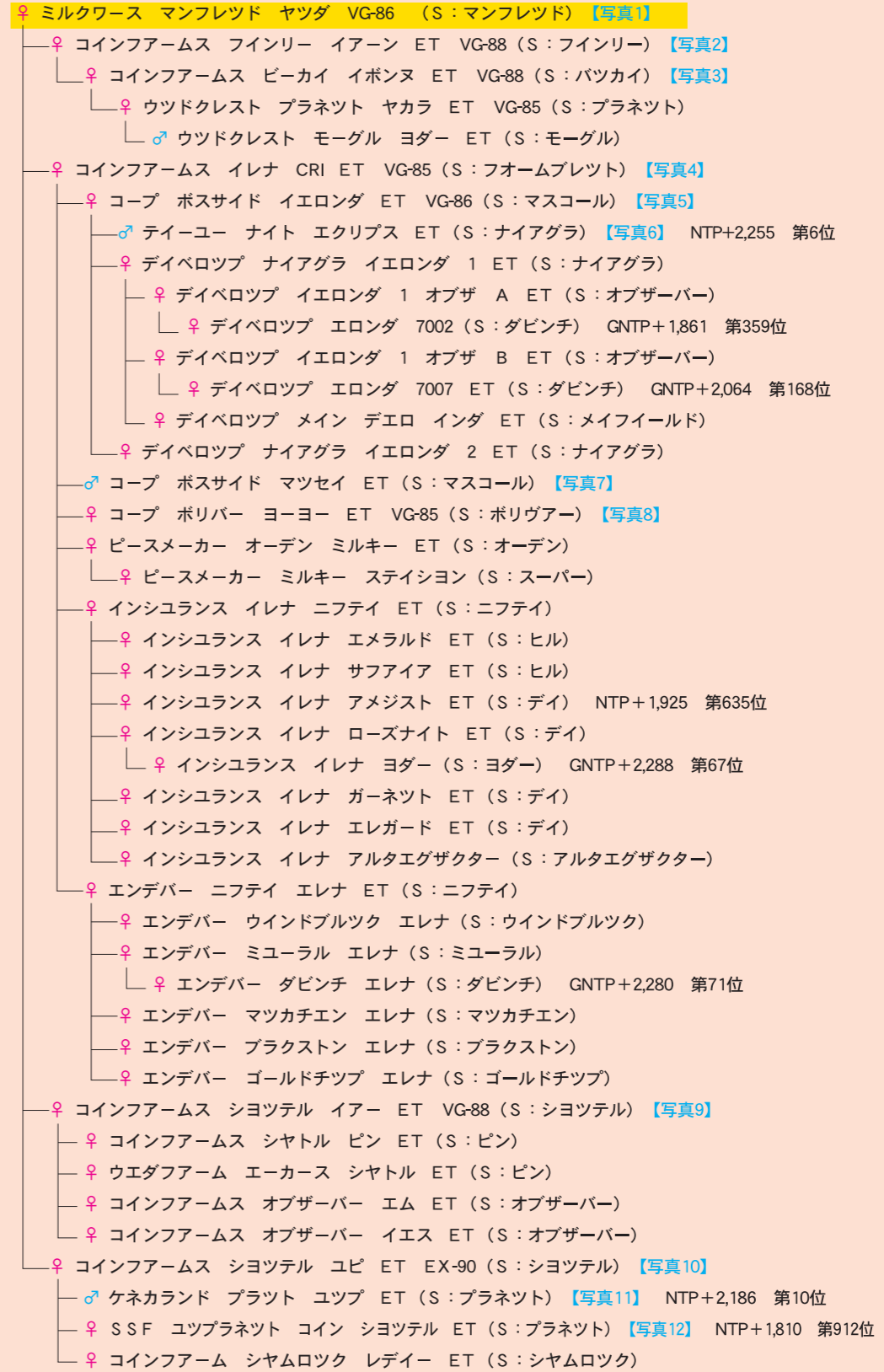
成功を収めています。彼女は初産から365日 M16,207kg F4.0% P3.1%と類稀な泌乳能力を発揮しました。また、高能力と中型サイズかつ幅・強さに富んだ強靱なフレームを当ファミリーにもたらし、この特長は今日まで強く受け継がれています。

ヤツダはフィンリー、ブレット、シヨツテル等による娘牛を残していますが、当ファミリーを世界的に有名にしたのが種雄牛マツセイの存在です。CRI社は当初よりヤツダに注目しており、自社のMOET牛群に受精卵を導入し誕生したのがコインファームス イレナ CRI ET【写真4】です。彼女はヤツダのブレット娘牛で、小柄ながら365日16,751kgと母ヤツダを上回る能力を発揮し、2歳時にVG-85点を獲得しました。その後、イレナにドイツの種雄牛マスコールを交配した受精卵がウィスコンシン州のボスサイド牧場に購入され、雌雄1頭ずつが誕生しました。この雄牛がマツセイで、2012年4月に全米第3位でデビューして以来、2年以上に渡りトップ5位以内に留まりました。マツセイの全姉妹にはコープ ボスサイド イエロンダ ET【写真5】があり、中型サイズながら良く開帳した肋と資質形状に富んだ乳器を備え、初産で1万kg以上F4.9% P3.6%を記録しました。当団では種雄牛造成を目的としてイエロンダのナイアグラによる受精卵を導入し、2016年8月の乳用種雄牛評価成績において全国第6位のエクリプスが誕生しました。日本ではエクリプスの全姉妹やイレナのニフテイ・オーデン娘牛が道北を中心に繁栄しています。また、イレナは元全米第1位の経産牛コープ ポリヴァー ヨーヨー ET【写真8】を輩出し、CRI社では10頭以上のヨーヨーの息牛が供用されています。

ヤツダのシヨツテル娘牛達は好体型を発揮しています。特にコインファームス シヨツテル イアー ET【写真9】は当ファミリー屈指の好体型で、2歳7ヶ月でVG-88点(乳器EX)を獲得、14,900kgを泌乳しました。ファミリー譲りの強健性に富んだフレームと正確な骨格を備え、極めて付着形状に優れた乳器を持っています。当団種雄牛ユツプの母コインファームス シヨツテル ユピ ET【写真10】もイアーに劣らぬ好体型の持ち主で、2歳時にVG-87点を獲得、後にEXを達成しています。

高ゲノミック評価の牛の活躍も目覚ましく、セレクトサイアーズ社所有のヨダーは早期のモーグル息牛として世界的に人気を博し、日本でも未經産牛ゲノミック評価においてヨダー娘牛が上位100頭の内18頭を占めています。泌乳最盛期でもコンディションを健康かつ良好に保ち、高い産乳能力ながら低い体細胞スコアを示す「ヤツダファミリー」は、現代の乳牛改良の要求に応えるエリートカウファミリーです。

系統図



第13回 ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会

平成28年10月8日、第13回当団黒毛和種枝肉共励会が(株)北海道畜産公社 道東事業所 十勝工場にて、盛大に開催されました。今回の出品頭数は、【一般牛の部】で45頭、【後代検定牛の部】で37頭、合計82頭でした。また性別から見ても、偶然にも去勢牛が45頭、雌牛が37頭となっていました。

公益社団法人 日本食肉格付協会北海道支所 帯広事業所 所長 内山審査委員長からいただいた総評と入賞牛講評に加え、注目されている後代検定中の種雄牛についてご紹介いたします。

総評

「去勢の出品は45頭で、平均枝肉重量は500.5kgで前回は480.1kgでしたので、20.4kg大きくなっており、増体の良さが伺えます。また全国平均482.8kgと比較しましても17.7kgも大きい結果となりました。雌の出品は37頭で、平均枝肉重量は457.3kgで前回の443.6kgより13.7kgも大きくなっていました。

肉質等級については、脂肪交雑(以下BMS No.)の平均値は去勢が7.9で、前回の7.3を0.6ポイント上回る成績となっております。「4」等級以上の適合率は実に95.6%で、前回の86.5%を9.1%も上回っており、また、全国平均の77.3%をもはるかに上回る好成績でありました。雌の「4」等級以上の適合率は81.1%で前回は3%も上回り、BMS No.の平均は7.4で、前回の7.1を僅かではありますが0.3%上回りました。

今共励会のレベルの高さをうかがえる結果と成りましたことは、ひとえに生産者皆様の肥育技術向上のご努力、研鑽の賜物であると深く敬服いたします。」

名誉賞

審査員講評:「【名誉賞】に輝いたのは、平取町の賀集昭知氏の出品の去勢牛「愛勝」号でした。枝肉重量564kg、ロース芯面積86cm²、バラの厚さ9.2cm、皮下脂肪2.3cmで歩留基準値77.6、BMS No. 12でA-5等級に格付いたしました。

外観は厚く幅が有り、長さも適度で、皮下脂肪の付着状態良好で、非常に体型の良い肉量に富んだ枝肉でした。切開面は、ロース芯と特に周囲筋に脂肪交雑が満遍なく入っており、肉色「3」番で、光沢があり、締りが良く、また、内面脂肪の付着状態も均等でむらなく、全体にサシの抜けた名誉賞にふさわしい枝肉でありました。」

当団より:「愛勝」号は、H黒-187「勝早桜5」×「百合茂」×「安福165の9」という血統構成で、現場後代検定中の種雄牛H黒-258「平莉」(父「光平福」)の異父兄弟にあたります。

○一般牛の部

審査員講評:「【最優秀賞】には津別町の迫田隆氏出品の雌牛「さこた87035」号(父:H黒-187「勝早桜5」)で、枝肉重量474kg、ロース芯面積78cm²、バラの厚さ7.4cm、皮下脂肪2.6cmで歩留基準値76.2、BMS No. 12でA-5等級に格付いたしました。

外観は名誉賞同様、厚み、幅が有り長さ適度で、良い外観をしており、ロース芯の脂肪交雑充分で光沢良好な枝肉になっておりました。特に脂肪質はしっとりとしており大変良好でした。ただ名誉賞と比較しますとバラの厚さが薄かったのが惜しまれ、今一步、名誉賞には届きませんでした。」

当団より:今回の共励会では「勝早桜5」産子が【名誉賞】と【一般

牛の部】の褒賞を独占しました。最多出品頭数となる29頭(去勢20頭、雌9頭)の出品を頂き、その平均成績は、枝肉重量504.9kg、BMS No. 8.5、上物率93.1%で、検定終了成績(同468kg、6.9、78.0%)をはるかに超える成績となりました。「勝早桜5」は来年宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会の第7区(総合評価群)・第9区(去勢肥育牛の部)の候補牛に選ばれており、今回の成績は全共宮城県大会に向けて非常に期待の持てる結果と感じられました。

○後代検定牛の部

審査員講評:「【最優秀賞】には白老町の和牛王国上村牧場出品の去勢牛「牛388乃26」号(父:H黒-236「花晴茂」)で枝肉重量582kg、ロース芯面積83cm²、バラの厚さ9.7cm、皮下脂肪3.8cmで歩留基準値76.2、BMS No. 11でA-5等級に格付いたしました。

まずロース芯の大きさが目立ち、若干あらザシではありますが、全体に満遍なく入っており、光沢良く良好な肉質となっております。特にバラの厚さは9.7cmと厚く充実しておりましたので最優秀賞と致しました。」

当団より:今回はH黒-232「友里福秀」、H黒-235「匠」、H黒-236「花晴茂」、H黒-237「真駒」、H黒-239「忠安茂」計5頭の後代検定中の種雄牛産子が出品されました。

このうち、「花晴茂」は見事に【最優秀賞】・【優秀賞】・【優良賞】を受賞しました。「花晴茂」は当初の「茂洋」の息子牛であり、母「ひもしげひめ」は当団種雄牛「北斗王」の異父妹で、母系は高く評価されている「ひもしげひめ」のファミリーです。本共励会を終えた時点での検定成績(26頭平均)は、枝肉重量479kg、BMS No. 8.0、上物率92.3%となっております。来年1月に検定終了を迎えます。当団トップクラスの脂肪交雑能力を持つ種雄牛として期待したい。

もう一つの【優良賞】を受賞した「真駒」は脂肪質・脂肪交雑に定評のある「北乃大福」の息子牛です。本共励会を終えて、現在の検定途中成績(17頭平均)はBMS No. 6.6、枝肉重量444kgとなっております。来年3月に検定終了予定です。

また、惜しくも入賞は逃したものの、一般牛・後代検定牛の部合わせて10頭(去勢2頭・雌8頭)の出品をいただいた「友里福秀(父:安福福)」は、本共励会を終えて枝肉重量491kg、BMS No. 7.1、上物率89.3%の検定途中成績(28頭平均)で、平成29年1月に検定終了を迎える予定です。枝肉重量の取れる田尻系種雄牛として期待が寄せられます。

「匠(父:北乃大福)」・「忠安茂(父:勝忠平)」についても本共励会を皮切りに続々と芯割予定であり、今後の結果に目を向けていきたいと思えます。

最後に、本共励会の開催にあたり、ご協力いただいた肥育農家の皆様と関係団体の皆様により感謝申し上げます。

第13回 ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会 入賞牛一覧

褒賞	父		母の父	母方祖父	性別	出荷月齢	格付	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラ厚(cm)	皮下脂肪厚(cm)	歩留り基準(%)	BMS No.	市町村名/出品者名	
	略号	名号													
名誉賞	H黒-187	勝早桜5	百合茂	安福165の9	去勢	29.4	A5	564	86	9.2	2.3	77.6	12	平取町/賀集 昭知	
一般牛の部	最優秀賞	H黒-187	勝早桜5	勝忠平	羅威傳王	雌	29.7	A5	474	78	7.4	2.6	76.2	12	津別町/迫田 隆
	優秀賞	H黒-187	勝早桜5	北平安	花桜	雌	28.5	A5	487	84	9.5	3.2	77.7	12	新冠町/新冠町有牧野
	優良賞	H黒-187	勝早桜5	茂重桜	平茂勝	去勢	30.3	A5	571	92	10.3	2.3	79.1	11	平取町/佐藤 修
	優良賞	H黒-187	勝早桜5	百合茂	安福165の9	雌	28.4	A5	489	93	7.9	2.5	78.5	11	津別町/迫田 和男
後代検定牛の部	最優秀賞	H黒-236	花晴茂	勝忠平	安平	去勢	29.5	A5	582	83	9.7	3.8	76.2	11	白老町/和牛王国上村牧場株式会社
	優秀賞	H黒-236	花晴茂	百合茂	北国7の8	去勢	29.2	A5	440	69	6.9	2.3	75.4	11	大樹町/岡本 透
	優良賞	H黒-236	花晴茂	藤桜	糸光◆	去勢	28.9	A5	549	63	8.9	2.9	74.1	9	新得町/有限会社上田畜産
	優良賞	H黒-237	真駒	平茂勝	安平	去勢	28.5	A5	448	57	8.0	2.5	74.4	8	白老町/農事組合法人白老牛改良センター

※敬称略

部門別枝肉成績表

【一般牛の部】													【後代検定牛の部】						【全体】													
性別	頭数	上物頭数	出荷月齢	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラ厚(cm)	皮下脂肪厚(cm)	歩留り基準(%)	BMS No.	上物率	性別	頭数	上物頭数	出荷月齢	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラ厚(cm)	皮下脂肪厚(cm)	歩留り基準(%)	BMS No.	上物率	性別	頭数	上物頭数	出荷月齢	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラ厚(cm)	皮下脂肪厚(cm)	歩留り基準(%)	BMS No.	上物率
去勢	31	29	28.5	508.0	66.1	8.0	2.4	74.9	7.9	93.5%	去勢	14	14	27.7	483.9	64.0	8.1	2.2	75.1	7.9	100%	去勢	45	43	28.2	500.5	65.4	8.0	2.3	74.9	7.9	95.6%
雌	14	12	29.0	473.7	68.8	7.8	2.9	75.0	8.6	85.7%	雌	23	18	29.1	447.3	62.7	8.1	2.9	74.8	6.7	78.3%	雌	37	30	29.1	457.3	65.0	8.0	2.9	74.9	7.4	81.1%
全体	45	41	28.6	497.4	66.9	7.9	2.6	74.9	8.1	91.1%	全体	37	32	28.6	461.1	63.2	8.1	2.6	74.9	7.2	86.5%	全体	82	73	28.6	481.0	65.2	8.0	2.6	74.9	7.7	89.0%



前列左から
 一般牛の部 最優秀賞 新冠町 新冠町有牧野
 一般牛の部 最優秀賞 津別町 迫田 隆 氏
 名誉賞 平取町 賀集昭知 氏
 後代検定牛の部 最優秀賞 白老町 和牛王国上村牧場 株式会社
 後代検定牛の部 優秀賞 大樹町 岡本 透 氏

後列左より
 一般牛の部 優良賞 津別町 迫田和男 氏
 " 平取町 佐藤 修 氏
 後代検定牛の部 優良賞 新得町 有限会社 上田畜産
 " 白老町 農事組合法人 白老牛改良センター

名誉賞

H黒-187

かつはやぎくら

勝早桜5

勝忠平 ×
 安平 ×
 隆桜

◆母の父:百合茂 ◆母の祖父:安福165の9

◆肥育者:平取町/賀集 昭知

◆枝肉重量:564kg ◆ロース芯面積:86cm²

◆BMS No.12 ◆格付:A-5

去勢 29.4ヶ月齢
ホクレン十勝枝肉市場上場

一般牛の部



雌 29.7ヶ月齢

H黒-187
かつはやさくら
勝早桜 5

一般牛の部
最優秀賞

◆母の父:勝忠平 ◆母の祖父:羅威傳王 ◆肥育者:津別町/迫田 隆
◆枝肉重量:474kg ◆ロース芯面積:78cm² ◆BMS No.12 ◆格付:A-5

後代検定牛の部



去勢 29.5ヶ月齢

H黒-236
はなほるしげ
花晴茂

後代検定牛の部
最優秀賞

◆母の父:勝忠平 ◆母の祖父:安平 ◆肥育者:白老町/和牛王国上村牧場株式会社
◆枝肉重量:582kg ◆ロース芯面積:83cm² ◆BMS No.11 ◆格付:A-5

一般牛の部



雌 28.5ヶ月齢

H黒-187
かつはやさくら
勝早桜 5

一般牛の部
優秀賞

◆母の父:北平安 ◆母の祖父:花桜 ◆肥育者:新冠町/新冠町有牧野
◆枝肉重量:487kg ◆ロース芯面積:84cm² ◆BMS No.12 ◆格付:A-5

後代検定牛の部



去勢 29.2ヶ月齢

H黒-236
はなほるしげ
花晴茂

後代検定牛の部
優秀賞

◆母の父:百合茂 ◆母の祖父:北国7の8 ◆肥育者:大樹町/岡本 透
◆枝肉重量:440kg ◆ロース芯面積:69cm² ◆BMS No.11 ◆格付:A-5

一般牛の部



去勢 30.3ヶ月齢

H黒-187
かつはやさくら
勝早桜 5

一般牛の部
優良賞

◆母の父:茂重桜 ◆母の祖父:平茂勝 ◆肥育者:平取町/佐藤 修
◆枝肉重量:571kg ◆ロース芯面積:92cm² ◆BMS No.11 ◆格付:A-5

後代検定牛の部



去勢 28.9ヶ月齢

H黒-236
はなほるしげ
花晴茂

後代検定牛の部
優良賞

◆母の父:藤桜 ◆母の祖父:糸光 ◆肥育者:新得町/有限会社 上田畜産
◆枝肉重量:549kg ◆ロース芯面積:63cm² ◆BMS No.9 ◆格付:A-5

一般牛の部



去勢 28.4ヶ月齢

H黒-187
かつはやさくら
勝早桜 5

一般牛の部
優良賞

◆母の父:百合茂 ◆母の祖父:安福165の9 ◆肥育者:津別町/迫田 和男
◆枝肉重量:489kg ◆ロース芯面積:93cm² ◆BMS No.11 ◆格付:A-5

後代検定牛の部



去勢 28.5ヶ月齢

H黒-237
まこま
真駒

後代検定牛の部
優良賞

◆母の父:平茂勝 ◆母の祖父:安平 ◆肥育者:白老町/農事組合法人白老牛改良センター
◆枝肉重量:448kg ◆ロース芯面積:57cm² ◆BMS No.8 ◆格付:A-5

齋藤哲也が行く! Moo飲んだ? Moo食べた?

今回は、帯広から車で約1時間に位置する大樹町の(有)夢がいっぱい牧場に伺いました。牧場は、代表者の片岡豪さんの父、文洋さんが昭和46年に京都から新規就農したことから始まります。ホルスタイン1頭から牛飼いをスタートした後、酪農地帯である大樹町という地理的環境を利用



ビフトロ井



ハンバーグ定食

して、当時ではまだ珍しい多頭数ホル去勢肥育を道内で初めて始めました。豪さんが代表になってから和牛経営に転換し、現在では繁殖雌牛200頭を飼養する和牛繁殖経営を行いながら肥育牛も年間5頭程度出荷し、隣接する牧場直営のレストランで提供しています。父、文洋さんの教えである『食べるまでが農業』の想いを



実現するため、平成3年に牛肉加工施設を設立、約20年前からレストランを開業しています。商品にも非常にこだわっており、牛肉には40日間チルド保存するウエットエイジングという熟成方法を取っています。これによって牛肉がやわらかくなり、牛肉中のタンパク質がうま味成分であるアミノ酸に変わるといった特徴があるそうです。また牛肉以外の食材も道内産を使っていて、ハンバーグのつなぎに使うパン粉を作るため、十勝産小麦で焼いたパンを削り出すという徹底ぶりです。豪さんは『誰も気にしないこだわり』と笑っています。

私がいただいたのは看板メニューの「ビフトロ井」

です。細切りされた冷凍熟成肉ローストビーフがご飯の上に乗っており、わさび醤油をかけていただきました。ご飯の熱でわずかに溶けた牛肉の甘みが口の中で広がるのと同時に、僅かに残る凍った部分のシャリとした触感、そして鼻から抜ける和牛独特の香りがピリっとくるわさび醤油と見事にマッチし、いつまでも食べていたいと思う逸品でした。実はこのビフトロ井、数年前にグルメレポーターとして有名な彦摩呂さんがテレビで紹介したこともあります!!現在はネット販売も行っていますが、生産できる量に制限があります、またロコミなどで評判になり注文数が増えてきているので、在庫も少なくなってきているそうです。またもう一つの看板メニューのハンバーグ定食はビフトロと同じく熟成牛肉を使い、味の決め手となるブイヨンは道内食材から取ったダシが1/10以下になるまでじっくり煮詰める手の込みようです。こちらでもネットで購入することができますので、皆さんもあの彦摩呂さんがお薦めの逸品を是非味わってみてはいかがでしょうか?

有限会社 夢がいっぱい牧场
住所:〒089-2112 北海道広尾郡大樹町萌和181番地
電話番号:01558-6-3295 <http://full-dreams.moo.jp/wordpress/>

平成28年度(第37回) 家畜(牛)体内受精卵移植に関する講習会修業試験合格者

平成28年8月22日から9月8日の間実施した「牛に係る家畜体内受精卵移植に関する講習会」で、次の方々が修業試験に合格されました。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 相原 史知 | 岡戸 敦史 | 高澤 駿 | 橋本 真吾 | 松本和香奈 |
| 石黒 呼人 | 鎌田 沙織 | 田中 裕香 | 長谷川幸広 | 山口 輝介 |
| 榎田 健智 | 小寺 貴幸 | 土佐いづみ | 畠山 巧 | 山口 剛司 |
| 蝦名 剛典 | 坂野 友美 | 長岡 好晴 | 馬場 貴大 | 山根 裕貴 |
| 緒方 信哉 | 柴田 俊 | 野田 直行 | 前田 陽平 | 若杉 敬太 |



循環型農業を目指して地域ブランドを創る！ ～旭川市(株)ひかり牧場「旭高砂牛」を訪問して～

旭川と言えば、平成10年頃から行動展示で人気を博している旭山動物園が全国的に有名ですが、大雪山からの伏流水と肥沃な大地から生まれる豊富な食材が多く特にお米、日本酒の産地となっています。道北最大の歓楽街とも言われる3・6街には、地元食材を生かした飲食店も数多くあります。今回、私が訪問した「株式会社ひかり牧場」は、地元の日本酒製造メーカー高砂酒造の「酒粕」を活かし、ホルスタイン去勢牛の肥育に取り組んでいる牧場です。

【ひかり牧場と自家産牛肉ブランドの特徴】

旭川市中心部から南へ車で約40分、西神楽地区にひかり牧場があります。昭和21年、現在の牧場代表者である松浦光氏の曾祖父の代からここで牛を飼い始め、搾乳、野菜作り、馬の繁殖など様々な農畜産作業の経験を積み重ね、今から30年ほど前、お父さんである正さんの代からホルスタイン去勢牛の肥育を始められました。

松浦代表は北里大学を卒業した後、日本食肉格付協会の協会員として7年間勤務された後、平成21年に実家に戻られ、4代目となって(株)ひかり牧場を立ち上げました。現在は約500頭のホルスタイン肥育牛と10町歩の草地を松浦代表と父親の正さん、従業員2名の計4名体制で管理されています。年間およそ100頭の肥育牛を出荷しています。

黒毛和種牛肉より通常は単価が低い自家産ホルスタイン種の牛肉をブランド化するにあたり、地元の日本酒製造メーカー「高砂酒造」の「酒粕」を活用するという地域循環型農業の確立を目指して始めました。独自のブランド化により

商品価値が向上するのは勿論のこと、お酒を生産する過程の副産物である「酒粕」をエコフィード(環境にやさしい、資源節約型飼料)として利用することで、飼料自給率の向上にも貢献できます。近年、大学等も学問として注目し、お肉の風味および柔らかさで高い評価を受けています。

近年、大学等も学問として注目し、お肉の風味および柔らかさで高い評価を受けています。

【確かな成果とブランドのこだわり】

酒粕給与の良しあしや出来上がりの牛肉について伺いました。メリットとしては、酒の持つ特有の芳醇な香りにより飼料としての嗜好性が良いことや、「酒粕」自体の栄養価が高いことで増体が大変良くなることが挙げられます。その一方、食べ込みが良すぎることによる鼓脹症や起立不全などの疾病が多くなる傾向に気を付ける必要があります。

出荷された枝肉重量は約500kgで、一般肥育牛に比べて50～60kgほど大きいそうです。出来上がりの牛肉は、ホルスタイン種であるため格付けはB2等級が多くなりますが、バラやロースといった人気の高い部位は特に大きく、枝肉で見ると格別な迫力があります。

そこまで大きく肥育できるもう一つの秘訣は、『完熟方式』というひかり牧場独自の生産コンセプトにあります。牧場を立ち上げた当初は、決まった月齢で出荷する方式で、肥育期間を同一にすることで管理費コストの削減により一時的な利益を生むことが出来ましたが、その一方、個体差関係なく出荷するため、品質が不安定となり長期的な顧客を獲得するには難しかったそうです。そこでもう一度出荷基準を見直して、試行錯誤の末たどり着いたのは、牛自体が熟すまで肥育を続ける、いわゆる『完熟方式』です。長い経験を積んだ昔ながらの牛飼いには、『牛が枯れてくる』という表現で、牛の仕上がりを見分けることができます。具体的には、決まった月齢で出荷するデータ重視の方法ばかりではなく、個体の状態を見極め、たとえば歩行時の背部における肉の背負い方を見て判断し、個別に出荷時期を決めます。これを実行するには、確かな経験と牛一頭一頭を確認するための手間は掛かりますが、生産者が納得するまで、良い物のみ出荷し、ブランド牛と



酒粕



酒粕の添加量を量る

して一番大事な品質を確保しています。現在の出荷月齢は23～24ヶ月齢で、一般のホルスタイン肥育牛の18～20ヶ月齢出荷より長く育てています。

また、「酒粕」の給与時期については、9棟の肥育牛舎のうちの1つ、仕上げ牛舎において、主に仕上げ期に配合飼料と合わせて給与するそうです。一般的なエコフィードは保存上の関係で、工場に依頼して乾燥・粉碎といった工程が必要なため割高になるのに対して、ひかり牧場では大型の冷蔵施設を導入し、乾燥を行わず酒の栄養分をたっぷり含んだ「酒粕」のまま給与すると同時に、コストも抑えられています。

【循環型農業から生まれるブランド】

地域循環型農業という観点でみると、高砂酒造の副産物である「酒粕」と、生乳生産の副産物である「ホル雄」のコラボレーションで、ひかり牧場の牛肉が生産され、さらにその副産物である糞が「堆肥」になり、高砂酒造が契約する「酒米」生産農家で使用され、その酒米から高砂酒造で美味しい日本酒ブランド『国士無双』などが造られると同時に、「酒粕」もまた生まれるという非常に興味深い構図となっています(下図)。



この地域と一体となり盛り上げていくブランドを目指すという思いから、旭川市の「旭」と高砂酒造の「高砂」を合わせて『旭高砂牛』と名付けられました。松浦代表はこのブランド名について、『旭高砂牛』は自分の力だけでやって来られたものではない。立ち上げから携わってきたJAあさひかわや高砂酒造、またホクレンや市役所の担当者の方々などと共に作り上げてきた1つのプロジェクト。ひかり牧場の生産物であっても、ひかり牧場だけのものではない。」と、ブランド名を牧場名にしなかった理由を語られました。



ブランド名を手に持つ松浦光代表



給餌

【ブランド力を高めるために】

ホルスタイン肥育牛と「酒粕」の給与に関する研究は今までに発表されていませんが、松浦代表の母校である北里大学で分析が進められています。現段階では「酒粕」給与により、柔らかさは最大で約20%上昇することやうま味を感じさせる「オレイン酸」(注)の数値も上昇傾向にあることがわかっています。今後はさらに大学で研究を進め、客観的な分析データを示すことでブランドの特色を消費者に伝え、地域ブランドをアピールすることができます。

この『旭高砂牛』は旭川市内のスーパーマーケット「アークス」で販売されています。また、旭川の食材のみで作るカレープロジェクトがあり、レトルトカレーでの

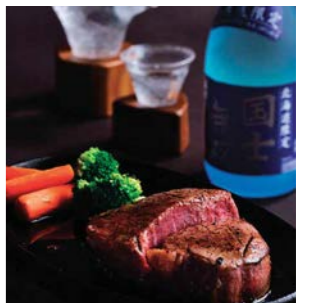
販売も考えています。将来、『旭高砂牛』の精肉はもとより、カレーもふるさと納税の返礼品とすることも視野に入れ、道内外の方々にも食べて頂けるよう意気込んでおられます。

今後の展望について伺いますと、「規模を大きくし過ぎない」という先代からの教えを守り、増頭しても自分たちの目で直接管理できる頭数に留めたい考えを強調されました。

徹底した個体観察のもと、「酒粕」の力で「完熟」した柔らかく、風味の良い『旭高砂牛』を、皆さんもぜひ一度ご賞味ください。

取材に当たりご協力をいただいた松浦代表をはじめ、(株)ひかり牧場の皆さん、JAあさひかわ 小中畜産課長、および各関係者様に深謝いたします。

(注)オレイン酸＝動物性脂肪や植物油に多く含まれている脂肪酸です。
(道北事業所 勝目 泰史)



旭高砂牛のお肉